

ニューソーラン節で姉妹都市交流

～平成15年度ふるさとのまちを語る交流事業～

10月15日(水)、登別中学校で『平成15年度ふるさとのまちを語る交流事業』（姉妹都市小中学校交流事業実行委員会主催）が開かれました。

この事業は、姉妹都市の提携を結ぶ宮城県白石市と登別市の中学生が友情をはぐくみながら、互いのまちについて理解を深め合おうと、平成5年から行われているものです。

姉妹都市提携20周年の今年、登別市を訪問したのは、引率教諭のほか、白石市立福岡中学校3年の金子拓さんと白石市立東中学校3年の大野静香さんの計4人。最初に登別中学校の生徒が合唱で訪問団を歓迎し、スライドを交えて互いのまちや学校紹介、記念品の交換が行われました。

記念品の交換では、登別市の『木彫りのふくろう』と白石市名産の『こけし』が交換されると、会場から大きな拍手が送られていました。

この後、金子さんと大野さんは、登別中学校の3年生が修学旅行先の田沢湖町（秋田県）で体験した『ニューソーラン節』に挑戦。登別中学校の生徒たちと打ち解け、笑顔で『ニューソーラン節』を踊っていました。



『ニューソーラン節』を踊る生徒たち



記念品を交換する大野さん（右）と金子さん

アイヌ民族の文化を多彩に紹介

～第16回アイヌ民族文化祭～



11月8日(土)、第16回アイヌ民族文化祭（社北海道ウタリ協会主催）が市民会館で開かれ、500人の市民がアイヌ文化に触れました。

毎年、開催地を移し、アイヌ文化を紹介しながら道内市町村で開かれているこの祭典ですが、今年『アイヌ神謡集』を著し19歳の若さで亡くなった知里幸恵の生誕100年を記念し、彼女の生誕の地・登別で開催されました。

ステージでは旭川市などの保存会による古式舞踊、登別アイヌ語教室メンバーによる早口言葉などの言葉遊びが披露されたほか、民族衣装の紹介やアイヌ語による弁論大会の表彰式ムックリの製作体験も行われました。

健康に良いと注目の作物を収穫

～ダットンそばとヤーコンの収穫～

10月17日(金)と31日(金)、札内町の市民農園でダットンそばとヤーコンの収穫がそれぞれ行われました。

ダットンそばとヤーコンは、地元で農業を営む方の副収入源として経営の安定化に向けて期待される作物で、昨年からの試験的に栽培されています。

ダットンそばは、ぜい弱となった毛細血管を改善する作用などがあるルーチンを豊富に含む健康食品。ヤーコンは、南米アンデス原産のキク科の植物で、サツマイモに似た根茎にはオリゴ糖が豊富に含まれ、血糖値を下げる効果がある健康野菜と、いずれも注目を集めています。

市職員と西胆振地区農業普及センター職員により行われた収穫は冷夏の影響もあって、ともに収量は昨年を下回りました。

来年の試験栽培は未定ですが、市は今後もダットンそばとヤーコンの研究を続けていくことにしています。



ダットンそばの収穫
ヤーコン